

令和5年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(防衛省05-⑤)

施策名	装備体系の見直し		担当部局名	整備計画局、防衛装備庁		
施策の概要	現有の装備体系を統合運用の観点も踏まえて検証し、合理的な装備体系を構築する。その際、各自衛隊の運用に必要な能力等を踏まえつつ、装備品のファミリー化、装備品の仕様の最適化・共通化、各自衛隊が共通して保有する装備品の共同調達等を行うとともに、航空機等の種類の削減、重要度の低下した装備品の運用停止、費用対効果の低いプロジェクトの見直しや中止等を行う。		政策体系上の位置付け	我が国自身の防衛体制の強化 (防衛力の中心的な構成要素の強化における優先事項)		
達成すべき目標	現有の装備体系を統合運用の観点も踏まえて検証し、合理的な装備体系を構築		目標設定の考え方・根拠	【目標設定の考え方】 大綱に従い、統合運用による機動的・持続的な活動を行い得るものとするという、前大綱に基づく統合機動防衛力の方向性を深化させつつ、宇宙・サイバー・電磁波を含む全ての領域における能力を有機的に融合し、平時から有事までのあらゆる段階における柔軟かつ戦略的な活動の常時継続的な実施を可能とする、真に実効的な防衛力として、多次元統合防衛力を構築していく。  【根拠】 大綱、中期防	政策評価実施予定時期	令和5年8月

測定指標		目標		実績	測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠	
①	現有の装備体系を検証し、統合運用の観点から実効的かつ合理的な装備体系を構築	統合幕僚監部の機能強化	令和5年度	別紙	・中期防において次のとおり示されていることから、これらの取り組み状況を測定指標として設定。  III 自衛隊の能力等に関する主要事業 2 防衛力の中心的な構成要素の強化における優先事項 (2) 装備体系の見直し 現有の装備体系を検証し、統合運用の観点から実効的かつ合理的な装備体系を構築するための統合幕僚監部の機能を強化するほか、装備品のファミリー化及び仕様の共通化・最適化、各自衛隊が共通して保有する装備品の共同調達等を行うとともに、航空機等の種類の削減、重要度の低下した装備品の運用停止、費用対効果の低いプロジェクトの見直しや中止等を行う。  限られた人材を最大限有効に活用して防衛力を最大化するため、情報処理や部隊運用等に係る判断を始めとする各分野への人工知能(AI)の導入、無人航空機(UAV)の整備、無人水上航走体(USV)及び無人水中航走体(UUV)の研究開発等の無人化の取組を積極的に推進するとともに、新型護衛艦(FFM)や潜水艦等の設計の工夫、レーダーサイト等の各種装備品のリモート化等による省人化の取組を積極的に推進する。	
		装備品のファミリー化及び仕様の共通化・最適化				
各自衛隊が共通して保有する装備品の共同調達						
航空機等の種類の削減						
重要度の低下した装備品の運用停止						
費用対効果の低いプロジェクトの見直しや中止等の実施						
②	無人化・省人化の取組の推進	無人化・省人化の取組の推進				

達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額)				当初 予算額	関連する 指標	達成手段の概要等	令和4年 行政事業 レビュー 事業番号
	令和2年度	3年度	4年度 (※1)	5年度 (※2)				
(1)	12式地对艦誘導弾能力向上型(地発型・艦発型・空発型)	0 (0)	0 (0)	98		2	当該事業は、12式地对艦誘導弾能力向上型の試作を実施するとともに、各種試験を実施して機能・性能を確認する。	0141
(2)	AI導入推進に関する経費	54 (54)	54 (49)	71		2	AIに関する諸外国の動向調査、AIの活用に係る政策の支援、AI事業管理の観点からの評価・助言を行うため、AI導入アドバイザーを役員取得し、防衛省・自衛隊におけるAI活用施策を推進する。また、AI人材の育成のため、部外委託により、AIに係る基礎研修を実施することで、AI開発に従事する上での必要な知識・技能を習得させる。	0230
(3)	AI適用システム維持管理のための環境構築の実証	0 (0)	0 (0)	0		2	AI学習に必要な、データベースやサーバ等から構成される「AI適用システムの維持管理のための環境」を小規模構築し、ユーザーに利用してもらうことで、将来必要となるシステムの機能や規模、利用者に求められるスキルを見極める。	05-0016
施策の予算額・執行額		54 (54)	54 (49)	169 (0)			施策に関する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの) 中期防衛力整備計画(平成31年度～平成35年度)(平成30年12月18日国家安全保障会議決定及び閣議決定) III-2-2(2) 装備体系の見直し	

※1 達成手段における令和4年度の執行額については、事業単位の整理(事業の統合等)に伴い、令和4年度予算要求時と執行額確認時の事業単位に差異が生じたため、記載していない。

※2 達成手段における令和5年度の当初予算額については、令和5年度より政策体系を変更したことから、当該施策に関連する予算としては記載していない。

令和5年度実施施策に係る政策評価の事前分析表(別紙)

(防衛省05-⑤)

施策名	装備体系の見直し
-----	----------

測定指標	目標	施策の進捗状況
①	現有の装備体系を検証し、統合運用の観点から実効的かつ合理的な装備体系を構築	
	統合幕僚監部の機能強化	
	元年度	●実績なし。
	2年度	●実績なし。
	3年度	●実績なし。
	4年度	●実績なし。
	装備品のファミリー化及び仕様の共通化・最適化	
	元年度	●令和元年度においては、費用対効果の観点から、民生品の使用や装備品等の仕様の見直しにより、経費縮減を追求した。(教育用電子教材の整備、FCネットワークの研究 等)
	2年度	●モジュール化・共通化や民生品の使用・仕様の見直しにより、装備品の構成について見直しを行い、開発、取得にかかる期間を早期化すると共に、ライフサイクルコストの削減を図った。 (多目的監視レーダ:従来4機種あったレーダを1機種に統合するレーダを開発 等)
	3年度	●実績なし。
	4年度	●モジュール化・共通化や民生品の使用・仕様の見直しにより、装備品の構成について見直しを行い、開発、取得にかかる期間を早期化すると共に、ライフサイクルコストの削減を図った。 (12式地对艦誘導弾(能力向上型)のファミリー化:地上、艦艇、航空機から発射できるようにすることで試作品費を抑制)
	各自衛隊が共通して保有する装備品の共同調達	
	元年度	●実績なし。
	2年度	●装備品のまとめ買いや、陸海空に共通する装備品の機体構成品の共同調達により、価格低減と取得コストを削減した。 (哨戒ヘリ:SH-60K、救難ヘリ:UH-60Jの共同調達 等) ●少量かつ長期間の整備の結果、高価格となっている装備品等について、経費縮減効果が見込まれるものを単年度にまとめて予算化し、効率化を追求した。
	3年度	●実績なし。
4年度	●実績なし。	
航空機等の種類の削減		
元年度	●偵察機(RF-4)の退役に伴い、偵察航空隊を廃止した。	
2年度	●実績なし。	
3年度	●実績なし。	
4年度	●実績なし。	

重要度の低下した装備品の運用停止	
元年度	●器材の集約化等により、維持整備コストの効率化を追求した。(情報システムの集約統合 等)
2年度	●実績なし。
3年度	●20mm対空機関砲や、203mm自走りゅう弾砲等の運用停止
4年度	●実績なし。
費用対効果の低いプロジェクトの見直しや中止等の実施	
元年度	●費用対効果の低いプロジェクトの見直しにより、効率化・合理化を追求した。
2年度	●費用対効果の低いプロジェクトの見直しにより、効率化・合理化を追求した。
3年度	●航空機や艦船等の維持整備方法の見直しなど、費用対効果の低いプロジェクトの見直しにより、効率化・合理化した。
4年度	●費用対効果の低いプロジェクトの見直しにより、効率化・合理化した。
②無人化・省人化の取組の推進	
無人化・省人化の取組の推進	
元年度	●船体のコンパクト化や合理化により、大幅な省人化が図られている、護衛艦「FFM」(3,900トン)2隻の建造経費(約951億円)を計上した。
2年度	●船体のコンパクト化や合理化により、大幅な省人化が図られている、護衛艦「FFM」(3,900トン)2隻の建造経費(約944億円)を計上した。
3年度	●船体のコンパクト化や合理化により、大幅な省人化が図られている、護衛艦「FFM」(3,900トン)2隻の建造経費(約944億円)を計上した。
4年度	●船体のコンパクト化や合理化により、大幅な省人化が図られている、護衛艦「FFM」(3,900トン)2隻の建造経費(約1,028億円)を計上した。

担当部局名	整備計画局、防衛装備庁	政策評価 実施時期	令和5年8月
-------	-------------	--------------	--------